

派遣報告書

氏名 太田 悠介
派遣先 パリ第8大学 (フランス)
派遣期間 2011年7月4日から2012年3月31日まで

派遣の概要および成果

2009年9月からパリ第8大学哲学科博士課程への留学を開始した報告者は、ITP-EUROPAプログラムの支援を受けて上記期間中も同課程に在籍し、研究課題「エティエンヌ・バリバールの思想における大衆論」に取り組んできた。これは前年度の研究課題「エティエンヌ・バリバールの思想における市民権と暴力の概念の研究」の成果と課題を引き継ぐものである。これまで報告者は「市民権(citoyenneté)」と「暴力(violence)」というふたつの概念に着目してきたが、近著(*Violence et civilité* [2010], *La Proposition de l'Égaliberté* [2010], *Citoyen Sujet* [2011])を含めたテキストの読解を進めるなかで、通常であれば異なる範疇に属するはずのこれら両概念が、バリバールにおいては実は「大衆(masses)」というより上位の概念のもとに包括されていることを意識するようになった。その結果、本年度はこの大衆の問題系を研究の軸に据えるに至った。本年度の研究課題は以上のような見通しのもとで進められた。

具体的な作業としては博士論文の執筆を中心とし、同時にその内容を部分的に発表することで、論文の主題のさらなる明確化を図ることに努めた。2011年8月29日から9月4日にかけてポルトガルのポルト大学で開催された国際学会「Borders, Displacement and Creation (国境、移動、創造)」では、「À la recherche du politique : le passage des classes aux masses chez Louis Althusser et Étienne Balibar (政治的なものを求めて—ルイ・アルチュセールとエティエンヌ・バリバールにおける階級から大衆への移行)」と題する口頭発表を行った。この口頭発表では、戦後フランス社会の中心的な争点が「階級(classe)」から「大衆」へと移行するという時代状況の変容に直面したアルチュセールとバリバールが、いかにしてこれを理論的に取り込んでいったのかを説明することを試みた。また派遣期間終了直後の4月28日にパリ国際学生都市日本館で開催された「La pensée de l'espace ou l'espace de la pensée (空間の思考、思考の空間)」では、口頭発表「Vers une philosophie politique des Masses. Trois variations contemporaines : Rancière, Laclau, et Balibar (大衆の政治哲学に向けて—ランシエール、ラクラウ、バリバール)」を行い、大衆の問題系の同時代的な広がりを、ジャック・ランシエール、エルネスト・ラクラウ、バリバール三人の哲学者の比較を通じて明らかにした。

今後の課題

2012年10月から開始する次年度の留学期間においては、本年度の口頭発表の内容を博士論文の一部として盛り込み、その完成を最大の目標とする。またこれと並行して、国内外の学会や学会誌などを活用しつつ、ITP-EUROPAプログラムの支援のもとでの留学の成果を積極的に公表するつもりである。具体的には、ポルトでの口頭発表をもとにした投稿論文がすでにほぼ完成した段階にあるため、まずはこれの学会誌等への掲載に尽力する。